



AA日本ニューズレター



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL03-590-5377

〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F FAX03-3590-5419



〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

No.43

第一回北海道地域

ワークショップ特集



第一回北海道地域

ワークショップに参加して

平成5年10月16日(土)17日(日)にAA北海道地域で初めての「ワークショップ」が開催された。実行委員会の一員として私も大きな賜物の恩恵にあずかれたなあと感じている。1日目のパブリックミーティング、2日目のサービスフォーラムとあわただしく時間が過ぎ、終わってみればやっぱり残るのは後悔の念。ああすれば良かった、こうすれば良かったと、変えられないものに対する思い入れは相変わらずの病気の部分なのだろう。反省会を開いたときに他の実行委員に言われ、ああそうか、そうだよなあと感じかされることも多かった。

平成4年の11月に、J S Oより提案を受け、地域内の各グループで検討し、地域集会で決定し、実行委員会を設立して、日時、場所、プログラムの決定、関係者、メンバーへのアピールなどなど、振り返ってみると一年がかりの開催であった。「パブリックミーティングって何?」「どんなプログラムを組めば良いの?」「ワークショップってどんな意味?」経験のある人達にとっては笑いそうな質問も、一つ一つ考え、J S Oに問い合わせ、パンフ類を送付して頂き、相談、相談また相談と、ワークショップが終わって会場を後にするまで、各実行委員たちにとっては心休まる日々は無かったのではないだろうか……。 (ちょっとオーバーかな)

わたし自身も二カ月ほど前からいつもワークショ

ップのことを考えていたような気がする。やる以上は少しでも良いものを、心に残るものを、という気負いが自分自身を捕えて離さなかった。あっちこっちでチヨロチヨロと、余り実にならないような行動をしていたようだ。

我々の地域活動が広がっていくには、関係者の方がたとの協力体制無しにはなし得ないものと考えてはいるが、実際にどのように協力していけば、また、頂けば良いのか、自分自身良く分かってはいない。そして現状の北海道の活動状況では、関係者の方がたからの要望には十分にこたえられないだろうと考えていた。

今回のパブリックミーティングで、協力体制を造り上げてゆく中で重要なことは、“AA”を良く知ってもらうということなのだと感じ、今回のワークショップが一つのきっかけとなって、今後のゆるやかな関係が造られていけば良いなあと思うようにもなった。サービスフォーラムの中では、もうちょっと活発な質問や意見交換が出るかなあと思っていたが、今一つ盛り上がり欠けたように感じられた。実行委員会のアピールのまずさもあり、参加してメンバーたちが今一つ乗り切れないで終わってしまったようである。

でもまあ1回目だからこんなものかなあと気を取り直し、北海道はシャイなメンバーが多いからと納得したりもした。J S Oの方が言われた「無理をしない」「今の自分たちができることをやる」という言葉が印象に残った。

北海道もそうであるが、全国的にもサービスに携わるメンバーが不足していると以前に聞いたことがあり、2~3年のメンバーがAAから離れていくとも聞いた。寂しいことではあるが、現状を受け入れ、細々とでもサービス活動を続けていくことが大事なのだろう。メッセージを伝えていくこと、出掛けて行って今苦しんでいる仲間たちに会って話をすること、この行動こそが“AAの基盤”であり、その活動なしには広

がりもないのだろう。わたし自身もその行動を少し広げてみよう。無理をせず自分のできる範囲で私の感じている感謝のメッセージを仲間に伝えたい。

ワークショップが終わっての第一声は「眠りたい、まずゆっくり眠りたい」であった。家に帰ってゆっくりしようと思ったが、今度は興奮してなかなか寝付けない。こんな時には仲間と話すのが一番と二人のメンバーと電話ミーティング。翌日の夜のミーティングで自分を見つめ直し、やっと少し落ち着いた。

何日かして、あるビギナーメンバーが「とても良かったし、AAのことがとても身近に感じられた」と話しているのを聞き、いろいろな思いはあったにしても、一人でもそういう印象をもってくれたのなら、まずは成功であったろうと思った。

大勢の関係者の方々にご参加頂き、また手助けしてくれた大勢の仲間たちにも大いなる感謝を込めてお礼申し上げます。

(実行委員)

.....
ワークショップが終わって

—— 私の責任 ——

今まで参加した数々のイベントの時とは少し違った緊張感と期待感の中で、待望のワークショップが開かれました。実行委員会の方々が相当苦労したと聞いている会場は、その努力が報われてかとても良いセッティングがされてはとした気分で仲間と喜びを分かち合えたと思います。一日目のパブリックミーティングの中では、特にJ S Oのスタッフの説明されたアノニミティの大切さ、献金の重要性を改めて感じさせて頂いた。今こうして社会の中に自分の居場所が与えられていることがつつい当たり前になりがちな私にとっては、諸々の意味で自分を省みる大きな力を頂いた時間でした。『AAは生き方を求める』を日々の訓練の中で身につけてソプラエティを続けていきたいと思えます。

次に評議員による北海道地域の活動状況が詳しく説明され、「まだ苦しんでいるアルコールクへの手助け」がメンバー一人一人の責任であると強く感じたものです。その後の医療関係者の方々の話の中でも、相互の協力なしではAA活動はとて続けていけないけれど、J S Oの方から言われた、関係者の方々がたとゆるやかな連帯を保っていききたいとの意味合いを大切にしていきたいものだと感じました。

最後の質疑応答も活発に進んで充実したミーティングの一日が終わりました。

二日目のサービスフォーラムは、WSM評議員の方のワールドサービスミーティングの報告があり、見知

らぬ国のAAの状況に思いを馳せたり、AAの素晴らしさを国際的なレベルで聞かせて頂いたり、貴重な体験をしました。次に各地のメッセージ活動について各グループから報告があり、共通の問題点が発表された中でグループ間のコミュニケーションを大切にしたいと強く感じました。お互いに密着し過ぎても離れ過ぎても良くないと思うけど、バランス良く助けあっていきたいものです。

AAにたどり着いてアルコールなしの生き方を少しずつ求めて今日に至り、改めて二日間を、J S Oの方、医療関係者の方がた、各メンバー、と過ごしてAAメンバーの一人であることに感謝できたことを大きな喜びとして、これからも多くのメンバーと会い続け、この言葉を心に刻み付けていきたいと思えます。

『誰かがどこかで助けを求めたら、必ずそこにAAの(愛)の手があるようにしたい。それは私の責任である』

(実行委員)

.....
ひとりでやろうとするから

負担になるんだ

初めてのワークショップには「？」と「！」が沢山ありました。自分が少しでもかかわった催しに、仲間がわざわざ足を運んでくれた感激。どんな話が聞けるのかなあという期待。どんな質問が出るのだろうという緊張感。どれもこれも私には初めての経験でした。難しげなプログラムの用語に、自分にはきっと分からないだろうなあという思いもありましたが、J S Oの方々の熱っぽくはあって穏やかで、今までの思いをかみしめるかのように話す姿は、内容を完ぺきには理解できなくても、その情熱と滲み出る充実感は鳥肌がたつほど私にささりました。

“ずーっと奥のほうにあるものは一つなんだ！”と思いました。そういえば、地域集會やビジネスミーティングなどで、苦虫をかみつぶしたような顔をしていた仲間でも、仲間とかかわっている話をするときの顔は、同じようにみんないい顔をして光って見えた。確かに楽なことばかりじゃなく、つらく、時には悲しい思いをすることもあったに違いない。でも一体何がそのようにさせるのだろう。そして何が聞いている私にこれほどのものを与えるのだろう。少々不思議な気がした。でもそれはきっと、サービスなど仲間の手助けにかかわって、仲間の回復、自分の回復が手ごたえとして感じられる“喜び”なのかなあなどと、私なりに思えます。(これって、やった人にしか与えられないものなんですよネ)

やっぱり素晴らしいものなんだ、必要なんだと思

ます。24時間ず～っと仲間とかかわれるならすごいな、などと極端な考え方も出てきます。でも、果たして今やりたいことを始めるのは良いけれど、続くだろうか、やったは良いが続かないとうのではあまりにも無責任ではないだろうか。そう考えたら二の足を潜んでしまう。

札幌市内にはミーティング場も多く、メッセージ先も約束されている。でもそれが無いところのメンバーは、いかに自分が疲れていようが忙しかろうが、足を使って歩く。恵まれた所において、行動が伴わないのは単なる私のワガママだ。飲んだけれいたときと同じだ。それに一人でやろうとするから負担に思ってしまう。

う。力がつくまで仲間の力を借りて一緒にやらせてもらえば済むことのように思う。楽をして自分の望む結果を得ることなど、どんなに都合良く解釈してもあるはずがない。そんなことを考えていたら、小さな自分とAAの凄さにショックだった。今回のワークショップでは、私の中の何かモヤモヤしていたものを吹き飛ばしてくれそうな気がします。

最後にJSOの方々は勿論のこと、当日私とかかわってくださった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

(実行委員)

AAメンバーの皆様へ

AA JSO オフィス運営委員

選挙のご報告に際して

このニューズレターがお手元に届くころには、第一回AAJSO(b)オフィス運営委員選挙の詳細な結果報告をお読みになって、既にご納得いただいておりますことと思いますが、ここで重ねて、グループ代議員、ならびにグループメンバーの皆様には、今回の選挙について事前に詳しく事情を説明することなく、皆様グループ代議員によって選出された地域評議員を主体とするゼネラルサービスミーティングメンバーと元地域評議員による間接選挙を実施したことを深くお詫び申し上げます。

1975年にスタートした日本AAも、1985年に開催されたAA日本10周年記念集会前後から近代化の歩みの速度を速め、各グループが代議員を選出し、AA全体をグループ代議員が直接選挙する方法で運営されてまいりました。

今まで選挙された4人のWSM評議員も全員がグループ代議員の直接選挙によって選出されております。

しかしその後、日本のAAのスケールが大きくなり、全国のAAを7地域に分け、各地域から選出された地域評議員にAA全体の運営を託していくようになりました。

ところで今回唯一選挙によらず自己叙任性を取ってきたJSOの運営母体であるオフィス幹事会を解散して、民主的な方法で運営委員会を選挙することになったときにその選出方法について、あらゆる面から検討を重ねてきました。その結果、その運営委



員会が、JSOの業務執行に責任をもち、しかもその業務内容が公益法人会計や、著作権などの法対策、メディア、行政、医療への専門的アプローチであることを考えると、管理執行能力のある人達によって運営される必要から、ゼネラルサービスミーティングに出席して事情に熟知している地域評議員を中心とした方々にこの選挙をお願いすることに決定致しました。

その結果下記の(d)オフィス運営委員が選挙されましたのでご報告いたします。

北海道・東北圏	井出 氏
関東・甲信越地域	鈴木(T)氏
	長谷川 氏
中部・北陸・関西圏	奥村 氏

中四国・九州・沖縄圏 杉之尾 氏

皆様を選出した地域評議員にAAJSOオフィス運営委員の選挙を付託していただいて上記の結果になりましたことをご報告いたします。

(a)ノンアルコールクAAJSO運営委員
をご紹介します

高田西城病院 医師 森岡 洋氏

国立療養所久里浜病院ケア-カ 岡崎直人氏

かねてオフィス幹事会において、1994年1月1日より発足する、新AAJSOオフィス運営委員7名の方々の内、ノンアルコールク運営委員として、上記の方々と折衝を進めて参りましたが、お二人のご快諾を得て、ご就任いただくことになりました。

専門的なご意見を賜り、AAJSOの方針に反映させていきたいと思っております。

AA日本20周年記念集会実行委員から

42号のニューズレターでお知らせしたように、本集会のテーマが『20年の喜びを明日に向けて』と決定いたしましたので、実行委員会の面々にも熱がみなぎってきました。その中の2人の仲間のこの集会に対する思い入れは、42号でお読みいただいた通りですが、その他のメンバーも各小委員会、委員長会議、全体会議と合わせますと、一月に二度、三度と顔を合わせ、熱心な討議を続けております。

今回は、決定事項としてお知らせすることはありませんが、3日間のプログラムの骨子もおおよそが決まり、既に公募された中から、何度もケンケンガクガクの意見のやり取りや、投票を繰り返して選出され決定していたポスターに掲載する文字も決まりました。このポスターは原作者の元に送り返され、いよいよ最終的な仕上げの段階を迎えております。

現在のところ、このポスターの刷り上がりは来春3月を予定しております、これと前後してチケットの発売も計画しております。また、広報委員会ではチケット発送と同時に皆様に当日のプログラムや

会場の案内などを網羅したパンフレットをお渡しできたら、ということで既に準備を会し致しております。そのうえ、新たに選出されたレクリエーション委員会も、本プログラムと重複しないように苦勞しながら、アトラクション等を計画立案致しております。

一人でも多くの仲間に参加していただきたい、そしてその一人一人がその場で分かち合う20年の喜びを明日に向けての活力としていただきたい、それが私たちの願いです。これからもこの紙面をお借りしたり、またBOX916の紙面などもお借りして、これからも準備の状況、個々の決定事項などもお知らせして参りますので、お見逃しないうお願いいたします。



JSO年末年始スケジュール

12月30日 AM 9時 ~ PM 5時
12月31日 " "

(入金業務は正午まで)

1月1日 ~ 3日 休業
1月4日より平常どおり

